高知県宿毛市沖の島町弘瀬方言における身体感覚を表すオノマトペ

上野智子

はじめに

1．調査対象地：四国の西南端に位置する島で、宿毛市から定期船で８０分。戸数９９戸、島の人口の大半はここ弘瀬と北の母島に集中している。漁業・渡船業に従事する人が多い。高知県内のいわゆる西ことば（幡多方言）に属する。

2．調査年月日：１９９１年8月２９日午後1時４０分～３時２０分

3．話者：増本房子　　大正１５年1月２０日生（６５歳）
　　その他５７歳の女性１名に補足調査を行った。〈補〉の注記を加える。

4．調査者・調査場所：上野智子、話者宅の居間

5．調査方法・調査時の様子：質問法によった。初めは質問の意図を解しかねる様子が見られたが、ほどなく軌道に乗った。しかし、この種の質問調査では方言形を得ることが想像以上に困難であることを痛感した。

Ⅰ　全身の感覚

1－1　快不快

サッパリ

1－2　寒さ

ガタガタ　　寒い時・泳いだ直後などに使う。

ガタガタガタガタ〈補〉

ブルブル

ゾンゾン　　中・老年層がよく使う。

○ゾンゾン　キョーワ　ヒヤイガ　……

ぞくぞく今日は寒いが（風邪でもひいたのではないだろうか。）

1－3　熱さ

ポカポカ

カッカ

カッカカッカ

＊「ゾンゾン」のほかは共通語形とあまり変わらない。

II　皮膚の感覚

ヒリヒリ

ヤラヤラ〈補〉　焦げて痛い時に用いる。老年層がよく使う。

ビトビト　昔の言い方。中・老年層が使う。

ベトベト　今の言い方。

ダクダク〈補〉

ビショビショ〈補〉

ゴヨゴヨ　中・老年層がよく使う。痒いような感じを伴う。

○ゴヨゴヨ　ヒテ　ココチー　ワルイ。

（背中に何か入って）もぞもぞして心地が悪い。

カサカサ　若年層が使う。

ガサガサ　中・老年層が使う。

スベスベ　若年層が使う。

トゥルトゥル　全年層にわたって使われる。

○キレイナ　ハダ　シチョル。トゥルトゥル　シチョル。

きれいな肌をしている。つるつるしている。

ドゥキドゥキ　中・老年層が使う。

ズキズキ　若年層が使う。

ジンジン　全年層にわたって使われる。

ヒリヒリ　真夏の日に焼けた時にも用いる。「ジンジン」よりもよく使う。全年層にわたって使われる。

ドゥキドゥキ　中・老年層が使う。

ドゥクドゥク〈補〉　間隔をおいて痛む様子を表す。

ドゥクドゥクドゥクドゥク〈補〉

ドゥックドゥック〈補〉

＊「ヤラヤラ」「ビトビト」「ゴヨゴヨ」が注目される。また、中・老年層と若年層との間に、／du／と／dzu／・／tu／と／tsu／の発音上の対立が顕著に現れている。

III　頭部の感覚

3－1　頭

ガンガン　頭痛を大げさに言う時に用いる。

ドゥキドゥキ　中・老年層が使う。

ズキズキ　　若年層が使う。
フラフラ　　血圧が高い人の場合に用いる。
クラクラ　　めまいなどの場合に用いる。

3－2　顔面

カイカイ　　顔が次第次第に赤くなってくる様子を表す。中・老年層が用いる。

○メンドシュテ　カオガ　カイカイ　モエタ。

恥ずかしくて顔がかっかと燃えた。

「メンドシー」の「メン」は「面」という解釈が示された。「カイカイ」と「カオガモエル」は〈補〉でも同時に得られた。共起関係にある慣用表現のようである。

カッカ　　カイカイと同じことば。

3－3　目

ウルウル　　目の疲れ全般に用いる。全年層にわたって用いられる。
コロコロ　　全年層にわたって用いられる。

3－4　耳

ガンガン　　○ミミガ　ガンガン　ヒビク。

耳ががんがん響く。

ジトジト　　全年層にわたって用いられる。「ジクジク」よりもよく使う。
ジクジク
シメシメ〈補〉

3－5　鼻

ムズムズ　　全年層にわたって用いられる。
トゥーン　　全年層にわたって用いられる。

○ハナニ　トゥーント　キテ　ハナカラ　トゥキヌケヨルワイ。

（わさびを入れすぎて）鼻につーんときて、鼻から突き抜けているよ。

3－6　口

（口全体）

ネチャネチャ　　全年層にわたって用いられる。
ネバネバ〈補〉

（歯）

ガタガタ
ガチガチ　　○ハノネガ　アワンホド　ガチガチ　フルータ。

歯の根が合わないほどがちがち震えた。

ドゥキドゥキ　中・老年層が用いる。

ズキズキ　少・若年層が用いる。

（舌）

ヒリヒリ

ピリピリ　子どもが使うかもしれない。「ヒリヒリ」がふつうに使われる。

ヤラヤラ〈補〉

3－7　喉

カラカラ

イガイガ　よく使う。

セーセー　全年層に理解される。

○イキガ　セーセー　キレル。オーズツナイ。クルシー。カケアガッテ　ネー。

息がせいせい切れる。とても苦しい。苦しい。駆け上がってねえ。

ゼーゼー

フーフー〈補〉

＊顔面の紅潮を表す「カイカイ」と「メンドシー」、息の苦しさを表す「セーセー」と「オーズツナイ」の呼応が、象徴詞と形容詞との意味的相補関係を示唆しているのかもしれない。

Ⅳ　調体の感覚

4－1　肩

カチカチ〈補〉

コチコチ〈補〉

4－2　胸

タンタン　中・老年層がよく使う。若年層までは理解できるが、子どもには理解できない。驚く場合にも用いる。

○ムネガ　タンタンシテ　コワカッター。ドーキガ　オドルコトオ　ユーガデショー　ネー。

胸がどきどきして恐ろしかった。動悸が躍ることを言うんでしょうねえ。

タンタンタンタン〈補〉　程度が強い場合に用いる。

ドキドキ

ドキドキドキドキ〈補〉

キュット　　使うこともある。

ムカムカ　　船酔いなどに用いる。

4－3　腹

（空腹）

グーグー　　たまに使う程度。

（満腹）

ダブダブ　　「ゲップゲップ」よりよく使う。子どもは使わない。

ゲップゲップ　　○イマ　ノンデ　オナカガ　ゲップゲップ　シヨル。

今（飲物を）飲んで、おなかがげっぷげっぷしている。

パンパン　　全年層にわたって用いられる。

（腹下し）

ゴロゴロ　　全年層にわたって用いられる。

グルグル〈補〉

ピーピー　　全年層にわたって用いられる。

ピーピーシャーシャー〈補〉

4－4　胃

シクシク

キリキリ　　痛みが強い時に用いる。

キリキリキリキリ〈補〉

チクチクチクチク〈補〉

4－5　尻

ムズムズ

＊動悸が高鳴る様子を表す「タンタン」が注目されるほかは、共通語形とあまり変わらない。〈補〉では語基を4回反復する語形が度々出現した。

V　手足の感覚

（手）

プルプル〈補〉

（足）

ガクガク　　○アシガ　ダラシー。ガクガクスルー。

（遠くまで歩いたので）足がだるい。がくがくする。

ズイズイ　　高い所に登った時に感じる恐怖感を表す。若・中・老年層に用いられる。

○アシモトガ　ズイズイスル。
足元ががくがくする。

（その他）
ヌルヌル
ヌルット
ドロドロ（補）

＊足元から感じる恐怖感「ズイズイ」にぴったりあてはまる共通語を見い出せない。なお、これは、「Ⅰ　全身の感覚　１－２寒さ（で震える）」のところで、関連して出てきた語である。

Ⅵ　関節（骨）の感覚
グチグチ（補）
ブチブチ（補）
ポキポキ

＊とくに変わった語形は認められない。

Ⅶ　その他

＊なし

（うえのさとこ　高知大学人文学部）